

レポート

旭日大綬章受章祝賀会 盛大に開かれる

令和7年春の叙勲で旭日大綬章を受章した松本純を祝し、去る12月1日午後6時30分より横浜ベイホテル東急（横浜市西区）にて、受章祝賀会が開かれました。各界から松本と知己のある530名がお集まりくださり盛大な祝賀会となりました。



松本純・眞純夫妻

国歌斉唱と共に、登壇した発起人代表の麻生太郎元

総理、松本純夫妻。麻生元総理は「国のいくつかの要職で頑張っていた」と松本を労え、松本は誰よりも傍に立つ眞純夫人へ「15、17歳で出会い、24、26歳で所帯を持ち、激動の人生を共に歩み、今や73と75歳になりました。年を重ねれば重ねるほど大好きになります」と最敬礼。その言葉に会場は大きな拍手に包まれました。



ジャズと気さくな友情に彩られて

菅義偉元総理の乾杯の音頭につきジャズの生演奏が始まると会場は一転リラックスムードに。政界でも名唱をつとに知られる松本、お得意のフランク・シナトラのナンバーが披露されると会場は一気に打ち解けました。

司会者も設置しないこの日の変幻自在なプログラム、松本はマイクを持って各テーブルの参加者へ次々と突撃インタビュー。不意をつかれた皆さんが口をつく本音のメッセージに会場は笑い声や拍手喝采に。日頃から有権者と本音で語り合いたいとする政治家・松本純の巧みな演出が光るようでした。

そして最後に、自身の政治家人生を追想する名唱『マイ・ウェイ』が静かに会場を包みました。「歌は人を傷つけない、心を癒し、希望すら与えてくれる」。そんな松本の思いが滲む歌声でした。

「後援会は解散したが、新たに松本純のやり残した仕事の応援団を立ち上げたい」と閉会の辞の川本守彦実行委員長。その力強い応援メッセージに、会場からも力のこもった拍手が、ひときわ長く続いた一夜となりました。



麻生太郎第92代総理



菅義偉第99代総理



小泉進次郎防衛大臣



小林鷹之自民党政調会長



有村治子自民党総務会長



キャシー中島・勝野洋ご夫妻



南場智子ディー・エヌ・エー会長



鈴木俊一自民党幹事長



田中常雅日本商工会議所特別顧問



日本医師会 松本吉郎会長



川本守彦川本工業社長

受章にあたって 「出会い」「信頼」そして、「友情」をいつまでも

私の政治活動の原点は40年ほど前に遡ります。当時、私の地元・横浜市は大きな時代の転換期にありました。みなとみらい21地区など湾岸地区での新都心づくりと、そこから取り残された旧市街地との明暗の差は誰の目にも明らかでした。

私が暮らす東急東横線「桜木町」駅前に広がる野毛飲食店街もその渦中にありました。駅からの客足が商売上の生命線であるにもかかわらず、この新都心づくりでは、東横線「桜木町」駅を廃駅にし、「横浜」駅から新たにみなとみらい21地区へ乗り入れる計画が進められていたのです。

「桜木町」駅がなくなる……。野毛にとって死活問題のこの危機を市政に訴えるため、町は地元から市議員を誕生させる動きに出ました。そこで白羽の矢が立てられたのが、この町で小さな薬局を営む薬剤師の松本純（当時37歳）。これが私の政治家としての人生が始まる瞬間でした。

その私が今年75歳になり、政治家として「旭日大綬章」受章の栄に浴しました。なぜなのか自分でも信じられません。ただ一つ思うことは、社会は人と人との繋がりでできているということです。市政の場でも、衆議院議員となった国政の場でも、さまざまな素晴らしい出会いに恵まれました。その運命的な「ご縁」を何よりも大切に、信頼を築き、友情を育み、共に力を合わせ、勇気をもって、いかなる難題にも取り組むこと——、その重みを、いま、身に染みて感じているところです。

私にはまだ課題が残されています。①拉致問題の解決 ②国民皆保険制度の堅持 ③次代を担う若手政治家の育成です。今後も微力を尽くしてこれらの問題に答えが出せるように取り組む所存です。

松本純 旭日大綬章受章祝賀会



今後の課題

「拉致問題」解決に全力を尽くします

2002年、日朝首脳会談で北朝鮮が拉致を認めてから23年。5名の被害者が帰国しましたが、残念ながら未だ問題の解決には至っていません。

ある日突然日本人が連れ去られるこの事件。見知らぬ大人たちに拘束され、見知らぬ国へ連れていかれる子どもたちの恐怖と果てしない悲しみ。可愛い我が子を突然失うご両親、ご家族の慟哭、憤怒を思うと怒りに体の震えが止まりません。

「(この国では) どうしてこんなに大事なことが解決されないのか」。拉致被害者・横田めぐみさんの拉致から48年を迎えた母親・横田早紀江さんのお言葉です。私は政治家としてこのお言葉を重く受け止めます。

横田さんのご家族は神奈川県川崎市にお住まいです。拉致被害者とご家族の苦しみは、いまでも消えることはありません。

高市早苗内閣総理大臣は、すでに日朝会談を申し入れ、「私の代で解決したい」と決意表明されました。私も仲間の議員たちと、できることはすべてやっていきます。



▲拉致問題を未解決のまま見過ごすわけにはいきません